

市街地におけるキノコの生態研究

八代市立代陽小学校 5年 岩田 彩里

1 研究の目的

私は、野生のキノコを見るのが好きだが、くわしく観察したり、胞子を顕微鏡で見たりすることはなかった。自分の住む地域でどのような野生のキノコが生えているか、また、生える場所や形に関係はあるのかを調べてみたいと思った。

2 研究の方法

家の近くで野生のキノコを見つけ、特徴を記録したり胞子を取って顕微鏡で観察したりする。
 <観察のポイント> ①生えている場所 ②かさの特徴 ③柄の特徴などを調べて記録する。

3 研究の結果

地面から生えるキノコ

名前	ニセアシベニイグチ	シロハツ	ヘビキノコモドキ	コガネホウキタケ
場所	日陰の湿った地面	日陰の湿った地面	日陰の湿った地面	日陰の湿った地面
かさの特徴	小さく丸まっている	裏は青いひだ	つぼと白いつぼ	かさはない
柄の特徴	軸は太いフェルト状	直径7cm高さ5cm	もろく折れやすい	やわらかい

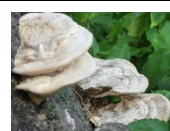
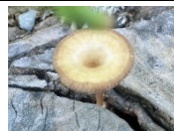


名前	トガリベニヤマタケ	シメジのなかま	ホコリタケのなかま
場所	広葉樹の下芝生に群生	日の当たる芝生に群生	日の当たる芝生に群生
かさの特徴	表面にぬめりがある	表面はひび割れている	表面はひび割れている
柄の特徴	薄黄色で繊維状	細く中空になっている	中は黄色でスポンジ状



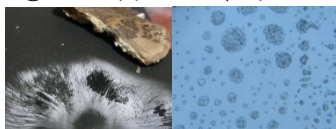
木から生えるキノコ

名前	アミスギタケ	ヒラタケのなかま	サルノコシカケのなかま
場所	広葉樹の枯れ木に単生	広葉樹の切り株	榎の幹に群生する
かさの特徴	裏は楕円形の管孔が並ぶ	表面に薄土色の鱗片	表面は波うち縞模様
柄の特徴	細く柔らかい	細かいひだがある	硬くざらざらしている

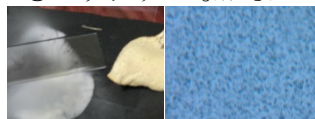


キノコの胞子の様子 (顕微鏡写真は100倍)

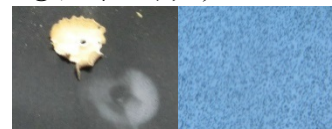
○ヘビキノコモドキ



○ヒラタケのなかま



○アミスギタケ



4 研究の考察

- キノコは種類によって生える木や場所が決まっている。
- キノコは菌糸を使い木や土や落ち葉などから養分を吸収している。(根の役目)
- キノコは胞子を飛ばして子孫を増やす。(種の役目)
- 胞子の形や大きさはキノコの種類によって違う。